

パンパック:北島康介、今季世界最高で賞状の2冠 / 沖縄インターハイ / 広島全国中学 / とびうお杯

SWIMMING

スイミング・マガジン

2010年10月号

沖縄インターハイ
広島全国中学
とびうお杯

SWIMMING

2010世界ランキング
TOP 16



<http://www.sportslick.jp/>



定価 880円

2010年パンパシフィック選手権特集
Pan Pacific Championships 2010 / Irvine California, U.S.A.



The King Kitajima

王者の証

北島康介、
今季世界最高記録で平泳ぎ2冠

松田文志 / 古賀淳也 / 寺川 綾
入江陵介 / 藤井拓郎 / リレー

小堀勇気 etc.

M・フェルプス / R・ロクテ etc.

大会結果
ロンドン五輪を前提にした
今大会の位置づけ

発行所: 日本スポーツライティング協会 (日本スポーツライティング)

部員は27名で男女の比率は半々ほど。予選出身者だけでなく、全国から幅広い学生が集まっている。ちなみにアリーナのチームジャンパーは「チームカラーが青で、その中からかっこいいものを選びました」とのこと。小山正博は今回のキャンペーン企画について、「ジャンパー一着の2年生が応募したらいいのですが、まわったかと思ってるから、みんなでカバーでした」



arena team order
キャンペーン

Aコース「スイマガ掲載」
当選チーム!

千葉大学

〒263 8522 千葉市稲毛区物産町1-33

今回のチーム訪問はアリーナとの共同企画によって実現した特別編。
「arena team orderキャンペーン」のAコースの特賞として、548通もの応募の中から見事当選を果たしたのは、国立千葉大学水泳部だ。
難関の入学試験を突破して集まった部員たちの顔ぶれは、まさに多種多様。
トップ選手から初心者まで幅広い競技レベルの選手が混在する中で、すべての学生に共通するのは「水泳が好き」という思いだ。
夏真っ盛りの8月某日、千葉県のキャンパス内にあるプールをたずねた。

文◎直江光信 写真◎赤賀 正

大学で水泳を始めた初心者からインターハイのファイナリスト、はたまた中学、高校で他のスポーツを経由して復帰した元ジュニアスイマーまで。JR西千葉駅から徒歩1分、国立千葉大学の広大なキャンパスの奥の奥に位置する屋外プールには、様々なキャリアを持つ選手たちが混在する。

それぞれに共通するキーワードはたったひとつ。「水泳が好き」。

むろん大学の体育会だから、チームとしての目標は試合に勝つことだ。ただし躍如の国立大であるがゆえ、部員の競技レベルは一定というわけではない。とりどりの

泳力の選手がそれぞれにベストを尽くし、その力を結集して勝利を目指す——。それが、千葉大体育会水泳部のもっとも大切にするテーマである。

現在、部員は男女合わせて27名。顧問の先生はいるものの、通常の練習は基本的に学生自らの手によって進められる。メニューを組み立てるのは、高校までの競技経験豊富な「練習係」と呼ばれる部員たちの仕事だ。試合前の一定期間は距離別に練習内容を分けることもあるが、原則的には全員が同じメニューをこなす。

チームとしての活動は全体練習

が週3回で、その他に近隣のプールを利用して行なう朝練が月、火、木、金の4回。ただし授業の関係で朝練に出られない学生も多いため、「4回の練習のうち、週に1回以上は必ず参加する」というルールを自主的に設けている。

静岡県浜松北高時代にインターハイに出場、現在は工学部で都市環境システムを学ぶ小山哲迪主将(3年)は言う。

「正直、授業との両立は大変です。でも組み合わせを工夫することでやりくりはできる。ウチはなんとか時間を作って部活に来るといって人がほとんど。他のチームの話を聞いても、国公立の大学はそういう環境が多いようです。ただそうした状況でも、タイムを伸ばしている部員はたくさんいます」

強豪校のように部活動優先で授業の融通が利くわけではない。つまり競技のことだけを考えれば、決してベストの環境とは言えないだろう。しかし、あえてそうした厳しい条件の中で高い目標を掲げ、



小山哲迪主将

【工学部3年/自由形】

「クラブのスタンスとしては、水泳が好きなら誰でもいいから、レベルに関係なくとにかく泳ぎたい人が集まったという感じ。一人ひとり泳力が全然違う中で、それきりまとめてみんなが勝ちましょうというのがウチのテーマですね。」

オリンピックに出場するような有名選手がいるわけではありませんが、部自体は50年以上の歴史を持つ伝統あるクラブです。千葉大には「業永会」というOB会があって、8月後半にはOBの方を招いて競技と試合をする「業永会戦」もあります。そこでは70歳台の方もいらっしやいます。

卒業後の道筋はそれぞれ人様々。マスターズなどで水泳を続ける人も多くいますね。こういふ環境でやっただけから、長く続けられるのかなという気がします。

CHIIBA University arena team order



校内にある屋外プールは50m×8コースと本格的。冬季は週2回の陸トレのほか、近隣の屋内プールを利用して練習を行なうという

チャレンジすることに価値があるのも事実だ。文と武のどちらかに偏るのではなく、真摯に両道を極めることを目指す。それが千葉大水泳部のプライドでもある。

一方で国立大ならではの長所も少なくはない。専任の指導者がいないからこそ、かえって自分の身につくこともある。「人を指導することで自分の注意するところが見えたり、意識するポイントが変わったりすることもあります。もし強豪校に行っていたら、勝たなきゃいけないというプレッシャーに押しつぶされていたと思う。幅広いレベルの選手がいるこの環境がすごく楽しい」と語るのは、9月のインカレ出場を果たした1年生の川島優花さんだ。

ちなみに千葉大にはスポーツ学科があり、部員の中にはそこで学ぶ学生もいる。時には「長距離選手と短距離選手で血中酸素濃度に違いがあるかを調査するため、他の水泳部員がサンプルを採取されることもあるのだとか。

写真左側水中練習の前には30分ほど全員で陸上トレーニングを行う
写真右側クラブのテーマは様々な泳力の選手が同じ空間で力を合わせ、サポードしあうこと。
そうした環境のせいか、卒業後もマスターズ大会などで長く水泳を続けるOBが多いという



本年度のチームスローガンは、「和を持って全力を尽くす」。そこには、様々な背景を持つ部員が力を合わせ、全員で支え合うことによって目標を達成する——という思いがこめられている。

「強い大学はその分プレッシャーもあって大変でしょうけど、国公立大には国公立大なりの難しさもあります。あまりに「勝とう」という意識が先行すると、大会でポイントに絡めない選手が「自分は関係ないから」と疎外感を感じてしまう場合がある。ウチのようなチームはみんなで力を合わせてやらなければ意味がないので、「それぞれやれることはあるから頑張ろう」といった声掛けを意識しています」(小山主将)

チームとしての最大のターゲットは、関東甲信越地区の国公立大

学大会で男女優勝を果たすこと。近年は実績ある選手の入部も増え、その手ごたえも感じつつあるという。一方で、小山主将はこうも話すのだ。

「結果はもちろん大事です。でもそれとは別に、部員みんなが水泳を好きなチームでありたい。ウチの一番の持ち味は、チームワークの良さ。辛い練習もお互いサポートし合って乗り越えられるようなクラブになっていきたいと思っています」

個人競技だからこそ、周囲の存在が1人の選手にもたらす影響は大きい。そして簡単ではないことにチャレンジするからこそ、達成した時の充実もまた大きいのだろう。一見すると「イマドキの大学生」が話す言葉には、どこか不思議な重みがあった。



練習係とマネージャーの指示を聞く部員たち。練習は学生自身によって主体的に進められる



川島優花 [教育学部1年生/自由形]

「千葉大を志望したのは、小学校の先生になりたかったからです。ずっと勉強はしていませんでしたけど、先生になるのが夢だったので1年浪人して頑張りました。大学に合格した時は「奇跡の子」と言われて、校長室にも呼ばれました(笑)。

ウチには幅広いレベルの選手がいますが、そういう環境がすごく楽しい。人を指導することで自分の注意するところが見えたり、意識することが変わったりすることもある。みんな仲良くやれるのが千葉大のいいところだと思います。

1年半くらい水泳をやっていたんですけど、今年がインカレの基準タイムを切れるとは思っていませんでした。でも最後のチャレンジで切ることができた。インカレは独特の雰囲気があると思う。他の強い大学のパフォーマンスを見て、来年につなげられるようにしたいと思っています」

和家有希 [教育学部2年生/背泳]

「もともとスポーツが好きで、スポーツを追究する学科に入ったかったのですが、スポーツ科のある千葉大を志望しました。競技のこどけをえればもういい環境の大学もありますが、ずっと文武両道でやってきたので、そこは自分のプライドですね。

中学1年生のときから全中、インターハイとずっと出てきたのですが、高校3年生のときだけインターハイに出られなかったんです。でも今はまだすぐくタイムが伸びてきている。インカレではベストを出して、決勝に挑みたいです。

私たちが頑張ることでチームのみんなもやる気になると思うし、刺激をもらえると思う。そういう流れを作りたいたいと思っています」